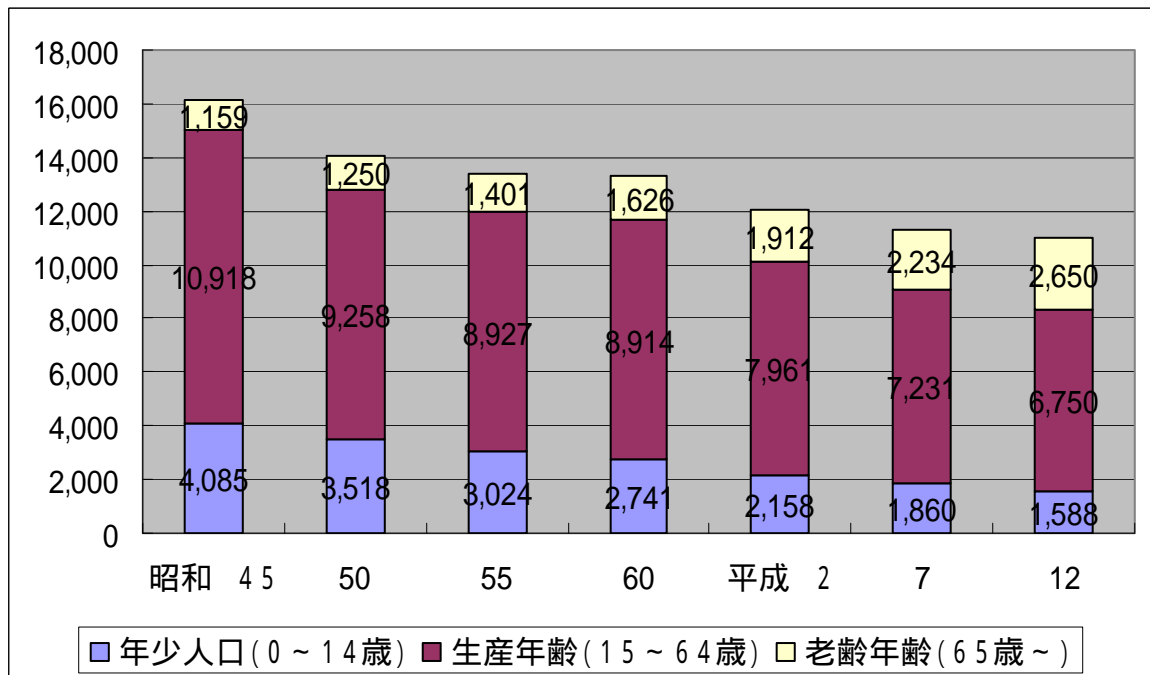


第2章 地域福祉を取り巻く現状

1 清水町の人口、年齢区分別人口、人口構成

清水町の人口は、昭和32年の18,490人をピークに年々減少しており、現在までに7,500人以上減少していますが、ここ数年は11,000人台近くを維持しており、減少傾向は緩やかになっています。世帯数は、ピーク時より約1,300世帯増加しており、核家族化が進行しています。人口減の主要因は、基幹産業である農業人口の減少と若年労働者の町外流出と考えられます。

年齢区分別人口



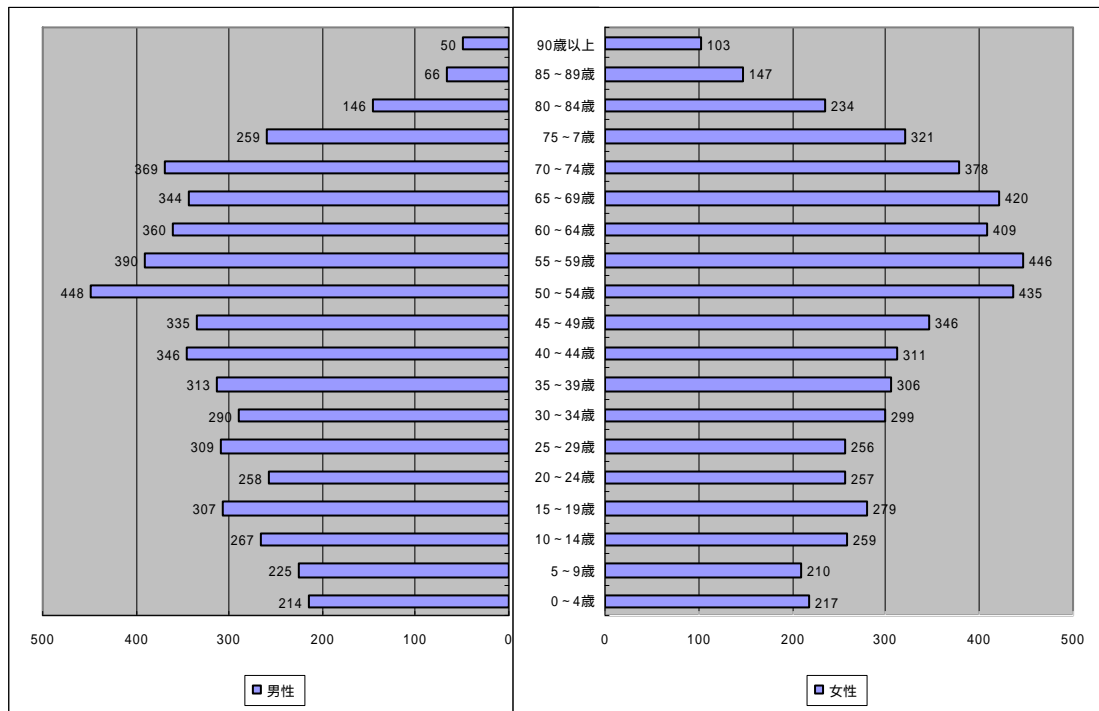
(国勢調査)

人口構造を年齢区分別にみると、15歳未満の年少人口と65歳以上の老年人口の比率は、平成7年を境に逆転しています。

平成16年4月1日現在の住民基本台帳の人口では、10,929人となっており、人口構成を人口ピラミッドの形態でみると、中高年層の人口の多さを反映して、50歳代で大きなふくらみが見られます。しかし、若年層の人口は少ないため、年齢階層が低いほどピラミッドのすそが次第に狭まる“つぼ型”に近い形となっており、人口の減少が懸念されます。

人口の高年齢化率（総人口に占める65歳以上人口の比率）は、平成8年になってから20%台となり、平成15年には25%台、平成16年4月1日現在では26%と上昇しています。上昇傾向は、団塊の世代が65歳になる平成25年から28年頃をピークに、さらに続くと思われます。

人口ピラミッド



(平成16年4月1日住民基本台帳)

2 町内会、農事組合の加入状況

清水町全域 4,414世帯(平成17年2月3日現在)			
清水地区 3,185世帯		御影地区 1,229世帯	
市街地	農村地域	市街地	農村地域
2,565世帯 (2,308世帯) ()内は加入数	620世帯 (545世帯) ()内は加入数	871世帯 (776世帯) ()内は加入数	358世帯 (322世帯) ()内は加入数

加入数は、広報等の発送数として、町内会・農事組合からの申し出による世帯数を計上しました。住民基本台帳上の世帯数を上回る世帯数の町内会もあり、その際は住民基本台帳上の世帯数と同数とし、御影地区の障がい者施設の入所者は、単身世帯とみなされるため、それぞれ同数世帯として計算しています。

町内・農事組合加入の状況は、4,414世帯に対し、3,951世帯です。(89.51%)

3 障がいのある人の状況

(1) 身体障がい者

身体障がい者手帳交付者数

(平成16年3月末現在)

1級	2級	3級	4級	5級	6級	計	人口対比(%)	
							清水町	管内
177人	243人	77人	104人	42人	35人	678人	6.2%	4.4%

(十勝の社会福祉)

障がい別区分

(平成16年3月末現在)

障がい区分	身体障がい者	身体障がい児	計	割合
視覚	29人	人	29人	4.3%
聴覚・平衡	60人	3人	63人	9.3%
音声言語	8人	2人	10人	1.5%
肢体不自由	472人	7人	479人	70.6%
内部障がい	96人	1人	97人	14.3%
計	665人	13人	678人	

(十勝の社会福祉)

(2) 知的障がい者

療育手帳交付者数

(平成16年3月末現在)

A (重度)	45人	計 96人
B (軽度)	51人	

(十勝の社会福祉)

(3) 精神障がい者

精神保健福祉手帳交付者数

(平成16年3月末現在)

1級	2級	3級	計
2人	17人	5人	24人

(町調べ)

